

BlackLine が SAP S/4HANA への移行を成功させる 4 つの方法

BlackLine は経理に携わる方々から、SAP S/4HANA への移行期間全体を通じて付加価値を提供するソリューションである、と評価していただいています。決算の自動化、可視化、コントロールを含め、まず BlackLine を導入すべき説得力のある理由が 4 つあります。

未消込明細項目の消去

システム稼働前に未消込明細項目の自動消込でリスクを低減

SAP のシステムには時間の経過とともに未消込明細項目が蓄積する場合があります。何百万件という項目が消込されないまま残っている組織も珍しくありません。このような未消込明細項目があるためにシステムの動作が遅れ、予期せぬ帳簿からの抹消につながることもあるため、IT、業務、経理財務の各方面にリスクが生じます。残っている未消込明細項目を手作業で消し込もうとすれば、何年もかかりかねません。

SAP S/4HANA へ移行する企業にとって、大量の未消込明細項目はさらに大きなリスクを招きます。移行の速度が落ちたり、可視性が失われたり、場合によっては正味残高を仮勘定に移動するために調整仕訳を起票するという手段を用いざるを得ない企業もあります。このような問題は事前に対処しておかないと、手作業の業務がさらに増えたり、監査上の問題が生じたり、虚偽報告につながる可能性さえあります。

BlackLine の専用ソリューションでは、ビジネスルールとロジックを用い、**未消込明細項目を自動的にマッチングし、対応する消込伝票を SAP に転記**します。手作業はほとんど必要なく、ごく短時間で何百万件もの未消込明細項目を消し込むことができます。BlackLineのおかげで経理部門は期待される業務への対応に注力でき、企業は自信をもって SAP S/4HANA へ移行し、よりクリーンなバランスシートを作成することができます。

貴重な社内リソースを解放

経理部門リソースの最大 50% を SAP S/4HANA 導入に振り向ける

ほとんどの企業は、SAP S/4HANA への移行に外部のコンサルタントを使います。しかし、効果的な導入を行うには、経験豊富な内部の人材をパートナー業者と協力させ、ベストプラクティスと業務上のニーズを適合させることが必要です。

BlackLine の決算自動化機能は、もはや持続可能とはいえない従来型の手作業による決算業務をモダンファイナンスに転換させます。トランザクション・マッチングでも、仕訳の入力でも、重要な期末の決算タスクの承認でも、BlackLine は実質的なコスト削減を実現し、より広範なデジタル変革の取り組みに投入できる予算と時間を生み出します。



SAP® Solution Extension

**3,000 社以上のお客様が
BlackLine を利用**

**800 社以上が SAP と
BlackLine を同時稼働**

**Fortune 50 企業の
50% 以上が利用**

**Fortune 500 企業の
37% が利用**

投資利益率は 2.67 倍に
調査会社 Nucleus Research

**Magic Quadrant では
4 年連続リーダーに**
2016 ~ 2019 年

お客様企業での BlackLine の導入は通常は数カ月で完了しますので、SAP S/4HANA より前に BlackLine を導入しておけば、移行がスムーズに進み、力強く変革を加速できます。

勘定科目表の変更管理と 財務マスターデータの検証

レガシーデータを新しい SAP S/4HANA 構成に
マッピングすることで可視性とコントロールを維持

多くの場合、経理部門は SAP S/4HANA の導入を、勘定科目表や法人の構成、その他の組織構成の定義において業務運営のあり方をよりよく反映するように更新する機会と見ています。

移行期間中には、変更管理と過去の残高の検証が極めて重要です。稼働開始後は、コンプライアンスの維持、継続性、GL 残高への可視性その他の詳細も同様に重要になります。

BlackLine は、企業における新しい ERP（基幹業務システム）や新しい勘定科目表のような大幅な変更の管理を支援します。BlackLine では、レガシーシステムの勘定コードと S/4HANA の勘定コードをマッピングすることによって、移行前の勘定残との照合が可能です。また、その他の関連する決算業務に対応する SAP S/4HANA タスクと関連付けることもできます。

企業は残高の完全性と正確性を継続的に証明し、方針や手続き、関連文書、照合、未消込明細項目などの過去の情報を失うことなく、期末項目を締めることができます。

過去の残高の検証など、システムの切り替えに関連するタスクの実行と記録にも BlackLine を活用できます。BlackLine の完全な監査証跡と監査人口ールにより、第三者によるこの種の変更管理業務の検証が容易に可能です。

パラレルの元帳やシステムが必要な場合、BlackLine は複数の元帳の管理に伴う追加の照合を自動化することができます。**グローバル企業は BlackLine を活用してパラレル勘定照合の 98% 以上の自動化を実現しており、変更管理にあたっての段階的な従業員数の増加を回避できています。**

データの一元化とプロセスの 標準化

ガバナンスを向上させ、すべてのデータソースに
ベストプラクティスを取り入れる

SAP S/4HANA を中核的 ERP として導入した場合でも、ほとんどの企業はその他の ERP やソースシステムも保有しています。M&A（合併買収）を進めれば、ERP の全体構成が絶えず変化し、データやプロセスの統合が難しい課題になる場合があります。BlackLine は ERP やデータに依存しないプラットフォームですので、異なるソース間のデータの同期化に関する比類のない機能を備えています。

BlackLine のエンドトゥエンド型の会社間ソリューションは、会社間の問題の発生を防ぎ、残高の齟齬が生じた場合は自動的に修正仕訳を転記することができます。**標準化されたテンプレートと組み込まれた職務分掌も、経理責任者が BlackLine をローカルな要件を満たしながらグローバルなプロセスを管理するための手段とみなす理由です。**

BlackLine について

BlackLine は SAP プラチナパートナーとして、SAP ソフトウェアのクラウドソリューション拡張を提供しています。企業の皆様が BlackLine を検討されるのは、従来型の手作業による会計業務では立ち行かなくなったことが理由です。BlackLine は、データやプロセスの一元化、反復的作業の自動化、可視性による説明責任の推進を通じたお客様企業のモダンファイナンスへの移行をご支援いたします。決算を迅速化するとともに完全で正確な決算結果を確保する手段として、3,000 社を超える企業からご信頼をいただいています。

